



第5回
阿蘇市文化協会
広報委員会
(印刷所)
(有)ヤマベ印刷

望み求められた協会に



阿蘇市文化協会長
後藤 新一

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方には、健やかに初春を迎えられ、気分新たに自己研鑽に努め進められていることと推察します。

昨年は、熊本城築城四〇〇周年記念にちなんで、熊本城内、市内をはじめ各地方でも年間を通じて催事が行われていました。

阿蘇市文化協会の一大行事であり、また文化祭も、第四十九回熊本県芸術文化祭に参加し、盛会の内に閉幕しました。展示の部、ステージの部、誠に優れたすばらしい、そして見事な出来映えでありました。又、先の第二回阿蘇市子ども芸術祭にも協賛しました。多くの子ども達の活潑とした演技を見まして、未来への期待と感動を得たところであります。

永遠として受け継がれてきた地域伝統芸能が、文化の底辺に輪を広め、心の豊かさとするとの愛着心が促されること、その成果ははかり知れないものが何われず。

いろいろと思えます。

また、協会は会員の年会費と、市及び県協会からの助成金をもって運営を賄っていますが、今後更なる活動の充実を図る上は、基本的年会費の増額に伴う運営資金の繰出も余儀なくし、これを改めまして個人年会費一、〇〇〇円と一分野増すことに、五〇〇円を加算し負担を願うものであります。

何れも前記の改善点は、総会において決するのが建て前であり、先々の常任理事会や文化祭実行委員会において前向きな了承を伺うこと、予め理解と協力をお願いしております。平成十九年度も残すところ二ヶ月余りとなり、行事計画として一般研修会があります。期日や研修先などの決定と実施に関しましては、執

緊密化をはかり統一された連携ブレイクを求める必要があり、グループ数の多い分野別に責任者の選出を新たに進めてま

岩永 浩氏 受賞おめでとう ございます



平成19年9月6日、阿蘇市初代文化協会会長岩永浩さんが、荒木精之(せいし)記念文化功労者賞を受賞されました。地域の文化や専門分野の振興に貢献された事により、熊本県文化協会(小堀富夫会長)より受賞されました。おめでとうございます。

ご挨拶



阿蘇市長
佐藤 義興

新年、明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から本市の「文化行政の発展はもとより、文化意識の向上・普及にご尽力いただいておりますこと」に深く感謝申し上げます。

さて、私たちの住むこの阿蘇市は、太古の昔から阿蘇地方の文化の中心として栄え、その時代に生きた先人たちによって育み創造された文化芸術や郷土芸能は、幾多の危機を乗り越えながら、親から子へ、子から孫へ受け継がれ、止むことなく今日まで受け継がれてきました。美しい自然や歴史、伝統や風俗に基づく地域文化の継承は、人々に精神的な豊かさや感動を与えるとともに、生きる勇氣と喜びをもたらす普遍的な力を持つています。

また、より高い地域文化は、人を育み地域を発展させるものであります。阿蘇市には、地域文化資源や歴史的遺産が多数存在しており、様々な保存活用が望まれています。そのためには、文化協会をはじめ、民間文化芸術団体やまちづくり団体等との連携を深め、市全体の文化振興を推進しなければなりません。今後、文化団体の育成と各分野との連携強化を図り、文化芸術活動や伝統文化継承活動を進め、文化の薫り高いまちづくりへとつなげると

にも、学校教育との連携により、子どもの芸術文化の推進と体験活動を通して、感性豊かな人間づくりにつなげていきたいと考えております。

「伝統文化の継承」それは、今に生を受けた私たちの使命でもあります。阿蘇市は、今後益々の文化振興と希望の持てる住みやすい阿蘇市づくりに向け、協会の皆さま方とともに創造していきたく思いますので、これからもご尽力ご協力いただき、阿蘇市の文化振興が更に進んでいきますようお願い申し上げます。

新しい年が会員の皆さま方にとり、実り多い年でありませう心から祈りをし、新年のご挨拶とします。

ご挨拶

副会長 小嶋 維男

新年明けましておめでとうございます。昨年は皆様のご支援の下、第三回阿蘇市文化祭が無事開催できましたこと心よりお礼申し上げます。新年を迎えるにあたり、皆様のご心事であります文化ホールについて述べたいと思います。

新市誕生に向けての合併協議会の中で、法に基づく基本方針として新市計画が策定され、根幹となる事業の一つとして文化ホール建設事業が決定されました。そのあり方について検討するための会として、市議会の代表、公募による委員、関係団体選出の委員が選出され、市長からの委嘱を受け、平成十七年十二月に「阿蘇市文化ホール市民会議」が発足しました。平成十八年十一月まで侃侃諤諤の会議、講演会、視察研修十一回を実施し、同十六日に市長へ「阿蘇市文化ホールに関する意見書」として提出されました。市広報紙等に掲載されるだろうと思つて既に一年余り経ちましたが、隔の目を見ることがないようなので、今回限られた紙面でお示しします。

社会的背景として、これまでの効率性や画一性を重視したことから、心の豊かさ、個性や生きがいを重視した自己啓発、教養、文化、スポーツいわゆる生涯学習を実践しようとする人々が増えてきていること、現に文化協会に百四十個グループ、生涯学習講座が三十余講座で活動中である。その活動の場、受け皿としてあるいは地方から中央、中央から地方への文化情報の発信基地としての核となるものが欲しいということ。今後の市の財政状況や伸び悩む地域経済を考えた場合、早期の事業着手には危惧の念を抱く意見もありました。

ここ数年で天草、人吉市、昨年は、玉名市民音楽祭が開催されました。大切なことは、自分達が文化ホールを支える覚悟があるか否か、と思います。微力ではありますが、阿蘇市文化充実のため、本年も皆様と共に努力していきたく思いますので、ご支援、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。



ステージ委員長 山部 七生

明けましておめでとうございます。昨年六月、ステージ委員長の大役を仰せつかりました。心の底に一抹

の不安を抱き乍らも役員、会員の皆様の御協力はもとより市民の皆様様の大きなご声援を受け、協会最大行事であります文化祭も大盛況のうちには幕をとじる事が出来た。ほつと安堵の胸を撫で下ろしている所です。特に本年度は、展示部門との連携を深め、持ち取り合い、肩寄せあうような気持ちで協力を支え、発展の原動力にして参りたいと思ひます。市民の皆様様の更なる御協力を心よりお願ひ申し上げ新年の挨拶と致します。

市民文化祭に思う

展示委員長 関 英輝

新しい年を迎えました。三回目の文化祭も無事終了し、文化協会会員の皆さんには、すでに次の新しい目標に向けて取り組んでおられることと思ひます。

展示部門も、皆さんのご協力により立派に開催することができました。市民文化祭としては、展示面積の大きさや二〇〇点を超える出展作品数は県下でも数少ないものと思ひます。来場の市民の皆さんに、舞台発表（ステージ）や展示作品を通して多くの勇気と感動を与えました。文化祭後のアンケートでは「感動しました」との多数のコメントを頂きました。

しかし、問題があります。ステージでは発表の時間不足、展示では展示面積の不足です。毎年の文化祭準備では、限られた発表時間と少ない展示面積のため、各分野の配分調整が最大の課題となります。結果、各分野の発表時間や展示点数を制限することが起きています。各分野の方々に「我慢と妥協」をお願ひすることになります。また、来場の方々から「昼食時間や休憩時間をとってほしい」「展示作品が重なり見にくい」などの意見が寄せられています。解決の一方策は、分野毎に発表会を分散開催することです。そして年

一回の市民文化祭に選抜発表する方法ではないでしょうか。分野ごとの横の連携や、日常の活動がさらに活発になり大切になると思ひます。展示部門がでしようにか。例えば、展示部門の多くのサークルや教室が、競って市内の展示可能な会場で発表会を行っているような文化の香り。いつの間にか阿蘇市の文化協会の大きな役割と責任を果たしていきたくと思ひます。また、市民ホールなどの常設使用可能な発表舞台やギャラリーの設備建設も解決方法です。文化祭時にステージ裏は、会員の熱気と緊張でいっぱいです。作品の展示作業や飾りつけに会員は懸命です。まさに、年間の成果が凝縮された時間と場所になります。次の一年間の生きがいとエネルギーを獲得する場となります。「文化祭は必ず続けてほしい」とのご意見にあと押しされながら、会員の皆さん、また頑張りましょう。

吟の道 四十年 雑感

石田 武

四十年前の私宅、待望の男児の端午の節句の席のことである。突然、友人（山部七生氏）が、子どもを抱え「日本男児 此処に生まる 勉勵、学徳をみがき、大きく飛躍して……」とつさのことであったが、その名調子、名文句、それがいわゆる祝の詩吟であった。吟を習い始めて数日も経たない大胆な彼の心からなる祝吟に全く魅了された、これが私の吟への出会いであり、出発でもある。

「半に引かれて、善光寺参り」思いがけないことや、人の誘いによって、その道に入ること、偶然よいほうに導かれることのとたえ。このことわざをいつも思い出す。顧みると、習いごとは、余程の信念と努力、そして指導者、友人に恵まれること、吟を始めて幾度となく失速することもあったが、諸先輩の

ほどよい導きによって、「初心忘れず」現在があることは、幸せであったと思ふ。吟とは心の交流、体の鍛練、詩文によって多くのことを学び、友によって活力を得る、心身共に自らを研いでいく。顧みると、来る人、去る人、沢山の出会いがあった。それぞれに学びの場であったと思ふ。さて、詩の一節に「老愁は葉の如く、掃えども盡し難し」。私、七十路も半ばになった今、やるせない老いの寂しさは、いくら払っても尽きない。でも、今からが秋の夕暮れ時の太陽のように光り輝く余生でありたい。昨年の文化祭には、各部門も素晴らしい熱演をみたり、市の発展は文化から、新年にあたり吾々も負けじと夕（ゆうべ）に詠じ、朝（あした）に吟じ、吟道に励みたいと思ふ昨今である。

フラダンス

宮田 悦子

新年のおよろこびを申し上げます。今年もどうぞよろしくご指導お願ひします。多くの市民の皆様方のご協力をいただき、文化祭が無事終ることができました。ホッとしたところです。ありがとうございます。私達のフラダンスは、発足して十年になるかとしています。女性だけの二十名の参加者が集い、月二回の学習に取り組んでおります。ボケ防止もかねて、運動不足解消に体を動かす、仲良く頑張っているところですが、頭と体が思うように動いてくれず、今更覚への悪さに呆れております。もう少しは運動神経があったんではないかと、四苦八苦している現状です。

年一回の熊本地区のフラフェスティバルに参加する事を第一の目標に、その他、老健施設等に日頃の練習を兼ねたずねたりしております。先ず自分の健康管理をしっかりやり、ボケないように、適度の刺激と緊張する中でやって行けるよう頑張っております。

求む・ ハーモニ二ーさん!

岩下 由水子

明けましておめでとうございます。昨年の文化祭、皆様お疲れ様でした。また、今年も文化祭に向かって、一年間練習を重ねていきたいと思います。その為にも、私達コール・アモロソンの一員として、団の紹介をさせていただきます。

平成二十七年になります。先生に濱津由美子様、ピアノ伴奏に神毛由紀さん御指導のもと、団員十六名、老いも若きも皆楽しく歌の練習に励んでいます。練習は、毎週水曜日の午前十時から十二時までで、一の宮就業改善センターの二階を使わせて頂いています。雄大な阿蘇の山々に囲まれ、広々と明るい所で、美声(?)を張り上げています。

私達の毎年の目標として、市の文化祭と県立劇場での「お母さんフェスティバル」に出場する事、それから病院や福祉施設等で歌わせて頂く事、これは最近滞っていますが、今年からまた始めたいと計画中です。

この三つの目標に向かって、一年練習を積み重ねてきました。出場の前二ヶ月前になると、世界中を駆け回っておられる高橋和子先生に、より心に響く歌声に近づけるように厳しくも、温かい御指導を受けています。長年続けていますが、思うように声が響かず、知れば知るほど歌う事の難しさを痛感している今日このごろです。

今年も、もう一つ大きな目標があるのですが、それ以上にコーラスもついでに自主講座になると思うので、今まで以上に運営が厳しくなると思います。それで一人でも沢山の人の仲間になって頂きたく、団員一同心からお待ちしています。一緒に楽しいハーモニ二ーを作っていきますませんか?



洋裁教室

鳴川 久美子

洋裁教室の始まりは、二人の友達から始まりました。二人で頭を悩まして、洋裁の先生を見つけて本格的に洋服を作ってみようかという話になり、習うならばもうと他の友達に声をかけようという事になり、私もその仲間になり声をかけられるなどして出来た教室です。

最初は、毎月第一、第三の水曜日二回でしたが、現在では、他のクラスが出来、第二、第三の水曜日と二クラス、先生の指導を受けて習っています。富重千代先生です。初めは自分の原型の取り方から始まり、布の裁断、縫い方と解らず、あちこちから「先生、先生」と声か飛びました。私は足踏みミシンは子どもころ何度か使ったぐらいはなかなか踏めませんでしたが、今ではスイスイと踏めるようになり、作品が出来上がる嬉しうてたまりません。これまで文化祭に二回展示しましたが、見

こられた方々の評判が良かったものですから、会員みんなで喜んで、先生の指導が良く、最近では皆さん上達され、教室は笑いが多く楽しく習っています。今後も楽しみながら作品を作り続けて行き、いつか機会があれば教室の皆さんと一緒に自分で作った服を着てファッションショーでも出来たら良いなと思っています。ミシンも良く踏めなかつた私が、今ではパンタロンや、ロングスリーブまで作れるようになりました。何事も出来ないと思わず、今では努力すればすべてが実ると云う言葉に感謝しています。皆さん、自分で作った洋服を着れる喜びに挑戦してみたいかがですか。まだまだ別の自分が待っていますよ。今後も楽しい教室で仲間と共に頑張ってください。

書道を始めて

後藤 さゆり

小学生以来掘ったことのない毛筆を掘り始めて四十の手習いで頑張っています。

何十年ぶりの墨の香り、小学校時代の教室での習字の時間を思い出しました。背筋をピンと伸ばし、サラサラと書いてみました。書いた字は相当お手本と違っています。難しいです。基本が大事、焦らず一歩一歩階段を上るように書いています。

私が習い始めて、小学校六年の双子の子どもも一緒に習うようになり、子どもも楽しそうに出てきたようで、「準五段になったよ。」「一緒に頑張ろうね。」「と励まされたり、「お母さんこの字はここはこう書いた方がきれいと思うよ。」「とアドバイスしてくれていけたらいいなあと思います。毎日の忙しい生活の中で練習時間を作るのが大変ですが、清書する時は集中して精神統一ができ、とても気持ちいいです。親子で書道の道を極めていきたいと思っています。

俳句

- 草紅葉日に日に牧の牛帰る 森 秋男
- 空稲架の棚田の村も暮れ早し 湯浅 陸雄
- 霧流れ谷の紅葉の現るる 青木さえ子
- 故牛の帰り花しき大枯野 井野ケサヨ
- 行楽や経文唱えへんろ坂 石井つる代
- 虫の声増せば暑さもおとろえぬ 園田 昌子
- 雪晴の光り輝く阿蘇五岳 高橋 安子
- 大阿蘇の影薄々と十三夜 中嶋 朝子
- みんなみに日射し回りに秋深む 宮本 不二
- 御詠歌のながれて札所秋暑し 山部モリ子
- 向日葵の向うに架かる虹の橋 山部 真子
- 孫ふいに歩み初めたる小春かな 湯浅 範子

パッチワーク

三井 ユキ子

若い頃から編物が好きだったので、近所の先生に暇な時に教わっていました。嬉しい事に阿蘇町に生涯学習センターが出来、編物を学ぶ事になり、年を取って本当に生きがいある趣味と出会って、同じ趣味を持つ仲間の人達とも出会い皆さんと楽しく頑張っていました。ある日、仲間の人が「パッチワークをしてみらんね。」と言われ編物からパッチワークの挑戦に意欲をだし、六年くらいになりました。布、色、形にまだ自信はないけど、福山先生の熱心なご指導により教室の仲間と一針一針、一つの作品毎に感動しながら楽しみながら作品づくりです。今後も出来る限りボケ防止、又、健康保持のためにも楽しみながら色々な場所に使用出来る思い出の

作品をと教室の皆さんと楽しく作品に挑戦して行きます。

阿蘇市になって、文化祭の出品も数多くなり、どの部門も本当に素晴らしい作品ばかりです。これから文化祭出品展示に向かって頑張ります。

舞踏の世界に導かれて

井 まゆみ

第三回阿蘇市文化祭が、大盛況に終える事が出来ました事をお慶び申し上げます。開催にあたり役員の方達の、並々ならぬ御苦労と、各会員の皆さん、また足をお運び下さった市民の方々あつての祭典であつた様に思います。私も舞踊の部でステージに立たせて頂きました。私が踊りを始めたきっかけは、嫁いで来た昭和五十年に、小さな集落ではありましたが、ほとんどの婦人の方々が踊りをされていました。秋祭り、文化祭、敬老会等で出演されてきました。その影響も受け、また主人の母に誘われ、御師匠さんも親戚の方で身近におられ、何の抵抗もなく入っていった様に思います。最近、舞う事の楽しさと、奥の深さを感じるようになりより一層稽古に力が入るようになってきました。

日舞の世界へ入り、本当によかつたなと思う事が沢山あります。御師匠関係、御弟子さん達との横のつながり、人生の勉強、人としてどう生きていくか、また生きていく知恵、礼儀作法等、先生から学ばせて頂きます。又ひとつは、着物の着付けが出来るようになった事は言うまでもありません。着物にも日本古来の文化があり、親から子へ、子から孫へと受け継ぐ事が出来、物を大切にしている事、大切さも学びました。私も主人の母より頂いた着物を有難く着用させて頂いています。三十数年の踊りの歴史ある私の集落で、秋祭、敬老会等で踊って下さいと依頼があるので、快く応じて舞わせて頂きます。御年配

の方々も昔を懐かしまれ大変喜んで頂きます。

山間地に住む私にとって、市の文化祭は楽しみにしている日でもありません。特に展示の部を拝見する度に感動を覚えます。文化祭とは、人の心を豊かに、また幸せにしてくれる大きな力があるように思います。そんな「文化祭」に対してありがとうございます。御礼を込めて、会場の後片付けをさせて頂きました。今後は古典舞踊へ挑戦させて頂き、日々精進し今日まで指導頂いた先生へ御礼返しを考えると、今日此の頃です。



事務局だより

事務局長 下村 勝志

皆様あけましておめでとうございます。阿蘇市文化協会も、発足し四年を迎えようとしております。振り返ってみますと、阿蘇町、一の宮町、波野村の三町村が合併し阿蘇市が発足し、文化協会も合わせて設立されました。

当時は、会員の皆さんも大変不安であったと思います。私たちも、最初は手探り状態でした。ことあるごとにみんなで集まり相談し、又皆様の協力を得て一年一年、会員の融合が図られてきたと思います。

町村合併により、ギクシャクしている文化協会も多数ある中、阿蘇市文化協会としては順調なスタートができたと思います。いまだに支部制をとっている文化協会もあります。先日は城南町文化協会から役員の方十五名が阿蘇市文化協会の合併について研修にいられました。また、城南町のいい点については参考にしていきたいと思っています。これからも阿蘇市の文化の向上に努めていきたいと思っております。

寄稿いただきありがとうございます。今年も一年、事務局として会員の皆様とともに頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

文化祭が終って

事務局 佐藤 信子

皇太子殿下をお迎えして、全国植樹祭が十一月四日に行われた関係で、阿蘇市の文化祭の日程を例年より早めることになりました。

文化協会としても、文化祭を実行することに色々な問題を抱えましたが、早めの十月十三・十四日に、時間に加減されながら無事終了することが出来ました。

作品の展示、又ステージの出演等もすばらしい発表の祭典となりましたこと、事務局の一員としてお礼申し上げます。

本年度も、会員の加入が千人以上の会員となり、各分野での組織のもとで活動され、文化振興に向け励まれる事うれしく思います。また、新年度に向かって市民の多くの方々が文化協会へのご加入方ご協力下さいますようお願いし、精進されることをよろしくお願ひ申し上げます。

会員募集

阿蘇市文化協会では、会員募集をしています。毎年6月末日締切り・大勢の方お待ちします。

阿蘇市文化協会

連絡先 0967-22-2223 下村
0967-34-0930 佐藤

広報委員会

謹んで新年のお慶びを申し上げます。会員の皆様お元気でよい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は文化協会運営につきまして、色々ご協力、ご指導賜り有難うございました。

私達広報部は、昨年配慮の出来なかつたこと等、心からお詫び申し上げます。本年は、反省しながら頑張りますのでどうぞご協力、ご指導をよろしくお願ひ致します。

また、ご寄稿頂きました皆様をはじめ、ご支援ご協力下さいました方々に心よりお礼申し上げます。

広報委員長 山内スミ子
大塚 武子
齊藤 英子
市原フミヲ
山下 幸代
岩瀬 洋子